

- 1 日時 10月○日(○) 第○校時
  - 2 学年 第4学年○組
  - 3 単元 「残したいもの、伝えたいもの」
  - 4 単元について
- 教材観

本単元は、学習指導要領の第4学年の目標(3)「社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。」を受けて設定したものである。ここでは、地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事を調べることを通して、現状を知り、地域の人々の生活の変化や人々の願い、または伝統や文化の保護・継承を実現するための働きや苦心について考え、地域に対する誇りや愛情、地域社会の一員としての自覚を持つことをねらいとしている。

日本では、古くから独自の文化を築き上げ、それらを何世代も受け継いできた。10月になると、全国各地で秋祭りが行われているが、この矢賀の町でも、10月の第三日曜日に矢賀3丁目の北東に位置する男崎神社にて行っている。

祭りでは、神輿を担ぐ姿をよく目にするが、その中でも特別に巨大で豪華な神輿が出ていた。これを矢賀村では「ちょうさい」と呼んでいた。「ちょうさい」は京都の「山鉦」の流れをくんで、安芸の国に約210年前から存在している。無病息災、五穀豊穰祈願のため、農民が氏神様に奉納するという説と、悪政に虐げられた農民が、氏神祭に威勢よく武家屋敷を練り歩き、悪い役人の門前では、一層氣勢をあげてもみ続け、時には門や塀を破壊していたという説があるようだ。祭りの中のそれが果たす役割は多種多様である。いずれにしても、健康でありたい、安全に暮らしたい、豊かに暮らしたいという人々の願いが込められていることには変わりない。「ちょうさい」の中には、紋付羽織を着た男の子が4人乗り込み、太鼓をたたきだけの広さがあり、金銀の飾り物が美しく施されている。重さは、約1トンもある。それを村の若い衆たち30人から40人で担ぎ上げ、勇ましい掛け声とともに町中を練り歩いていた。矢賀の「ちょうさい」の歴史は古く、戦後一時途切れた時期もあったが、約150年続いているという。

しかし、時代の移り変わりや「ちょうさい」を維持するための資金難、また、農業主体の町も都市化が進み、会社員がほとんどとなり、強い肩を持つ担ぎ手の減少、青年団活動の衰退など、様々な理由で廃止されていった。もともと矢賀には「ちょうさい」が4台あったが、2台は処分、1台は広島城に寄付し、残るは矢賀3丁目にある1台のみである。高齢化が進み、担ぎ手が少ない中、存続していくかどうか問われたこともあったが、町民のアンケート結果により存続されることとなった。今はなんとか2年に1回という隔年を保って奉納しているのが現状である。また、担ぎ手が少なくなっただけでなく、近年は準備・役割等が面倒であるということから、祭りに参加しない家族が多いこと、町内の人同士の関わりが希薄になってきていることなども大きな課題として挙げられる。これらの課題を受け、代々伝わる「ちょうさい」を矢賀の自慢として何とか後世に引き継ぎたい、祭りや「ちょうさい」をコミュニティの一つと捉え、人と人を結び付けたい、ひいては、愛する矢賀の町がこれからも矢賀の町として続いてほしい、という強い願いを持ち、活動している方が地域にはいる。

以上のことから、矢賀に残る祭りや「ちょうさい」には、地域の人たちが祖先代々大切にしながら受け継いできた長い歴史があり、それらを学ぶことは、地域に住む人々の健康や農業を中心とした産業の発展、さらには、地域の発展を願う様子、愛情、誇りを知ることができる。子どもたちも同じ地域に住む者として地域に伝わっている祭りや「ちょうさい」を学習することを通して、「知っているようで知らない」「知っているけれど、もっ

と詳しく知りたい」という追究意欲を持つことができると考える。また、実際の追究活動では、これまでの経験を想起し、祭りを見る人、参加する人、支える人、継承する人といった様々な立場から祭りの歴史、いわれ、継承・保存の働きについて多面的に追究させるようにする。地域に対する誇りや愛情、また、祭りや「「ちょうさい」」を受け継ぎ後世に伝えていくことで矢賀の町、人とのつながりを活性化させようとしている地域の方々の努力や工夫について学習し、自分たちもそのような伝統文化継承の一員としての自覚を育てたい。

また、それらを学ぶことは、矢賀の「「ちょうさい」」を学ぶことだけにとどまらず、日本の伝統文化を取り巻く現状、それをどのように守っていくかという努力や苦心、誇りや愛情について考える上で、大変意義深いものであると考える。

#### ○児童について

本学年の児童は、アンケートで 35 人中 17 人が社会科の学習が「楽しい」と答え、11 人が「どちらかと言えば楽しい」と答えており、社会科に興味をもって取り組んでいる。ただ、自分の考えや意見を発表することに消極的な児童が多くみられるため、考えたことを書かせ、ペアやグループで交流してから発表するようにしている。4 年生になり、浄水場やごみの処理について学習することで、様々な人の願いや工夫が社会をより豊かにし、自分たちの生活を支えてくれていることを学習した。また、様々な課題がある中で、自分たちにも何か取り組めることはないか考えることで、社会に参画しようという意識が育ちつつある。

本単元は大単元「くらしのうつりかわり」の中にあり、「古い道具と昔のくらし」に続く小単元である。また、本単元の後には「きょう土を開く（地域の発てんにつくした人々）」へと続いていく。「古い道具と昔のくらし」では、様々な人々の願いや思い、工夫が道具を変えてきたこと、そのことが生活を豊かにしてきたことを理解している。児童は、その中で様々な人の願いや工夫で今の社会へと変化してきたという見方・考え方を形成してきたと言える。本単元では、こうした見方・考え方を働かせ、今に残されているものとそれを残そうとしてきた人の関係に着目し、そうしたものには人々の願いや工夫が込められていることに気付くことが期待される。

#### ○指導について

本単元では、「多くの町で「ちょうさい」を廃止しているにも関わらず、『矢賀の「ちょうさい』』は、なぜ、残り続けているのだろうか。」を、単元を貫く学習問題として設定し、児童が様々な人の立場に立って考え、対話をもとに協働しながら学習を進めていくとともに、社会参画を育むことができるようにする。学習問題を解決するために調べていく事例として、矢賀に 150 年以上も受け継がれてきた「「ちょうさい」」に着目し、保存・継承していこうとする地域の方の願いや工夫、努力を中心に単元構成を行う。具体的には「ちょうさい」の歴史を知り、なぜ矢賀の地域に残っているのか、現在、その「ちょうさい」を受け継ぐためにどのような取組をしているのか、今後、「ちょうさい」を残そうとしている地域とどのように関わっていくか、という構成にし、ストーリー化するようにした。「ちょうさい」を残そうとする地域の方の工夫や努力に共感させながら、社会認識をさせていきたい。「いかす」場面では、地域の文化財や年中行事を受け継いでいくために、自分たちはどのように関わっていくか、どのような取組をすると残していくことができるかを考えることを通して、より児童の社会参画意識を育むようにしていきたい。

### 5 単元の目標

○地域の人々が受け継いできた伝統文化の様子と、それに対する人々の努力と願いを理解し、地域社会に対する誇りと愛着を持つ。

○地域の人々が受け継いできた伝統文化から学習課題を見出し、伝統文化を守ろうとする人々の努力や願いを適切にまとめることができる。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 地域の文化財や年中行事が受け継がれてきた様子やそれらを保存・継承していくための取組、地域の人々の繋がりに対する願いが込められていることなどを理解している。</p> <p>② 少子高齢化、後継者不足、祭りの参加者減少などの課題により、地域の文化財や年中行事を保存・継承していくことが難しくなっていることを理解している。</p> <p>③ 地域の文化財や年中行事には、人々の繋がりが密接に関わっていることを理解し、適切にまとめることができる。</p>	<p>① 文化財や年中行事に込められた地域の人々の願いと、保存・継承していくための工夫や努力とを関連付けて考え、表現している。</p> <p>② 地域の年中行事に参加している人々や、保存・継承しようとしている人々、あまり参加しようとしていない人々など、様々な立場から多角的に考え、適切に表現している。</p>	<p>① 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事について、それらの様子や継承していくための取組などを調べるための学習問題や予想、学習計画を意欲的に考えている。</p> <p>② 文化財や年中行事を継承するために行っている、地域の人々の努力や工夫、願いについて意欲的に調べ、地域の一員としてどのように関わることができるか考えようとしている。</p>

7 学習指導計画（全時間 8 本時 6/8）

過程	ねらい	主な学習活動と内容	■教師の働きかけ □評価 ☆資料
社会 認識 を 育 て る 場	<p>○ 道具以外の古くから残っているものに関心をもつ。</p>	<p>① 広島市に残る古いものを見付け、気付いたことを話し合う。</p> <p>広島市に古くから残っているものには、どのようなものがあるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広島城がずっと古くからあるよ。</li> <li>原爆ドームも残っているね。</li> <li>広島市には、原爆ドームのような観光名所だけでなく、かよこバスや江波漕伝馬船のようなものが残っている。</li> </ul>	<p>☆ 写真「原爆ドーム」</p> <p>■ 道具以外に残っているものには、原爆ドームのようなものがあることに気付くことができるようにする。</p> <p>□ 態①（ノート記述）</p>
	<p>○ 被爆建物や原爆の子の像に込められた人々の願いを考えることができる。</p>	<p>② 被爆建物や被爆したものを残そうとした人々の思いや願い、原爆の子の像の建設の苦労や人々の願いを考え、話し合う。</p> <p>なぜ、原爆投下後も原爆ドームや被爆樹木などを残したのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平和の大切さを伝えるために残したんじゃないかな。</li> <li>原爆の恐ろしさを世界中に知ら</li> </ul>	<p>■ 平和学習や平和ノートを通して学んだこととも関連付けて考えさせ、原爆ドームや被爆樹木には平和につい</p>

			<p>せるためだと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もう二度と戦争をしないという誓いのために残したんじゃないかな。</li> <li>・ 原爆ドームや被爆樹木などが残っていることで苦しんだ人もいるんじゃないかな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 残されているものには、歴史的な価値、人々の願いや思いが込められており、それらを次世代へ受け継いでいこうとする人々の努力により残り続けてくることができた。</li> </ul> </div>	<p>ての人々の願いや思いが込められていることに気付かせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 古くから残されている物には、人々の願いや思いが込められており、それらを次世代へ受け継いでいこうとしているから現在まで残ってきたことが捉えられるようにする。</li> <li>□ 知①（ノート記述） 思①（ノート記述）</li> <li>☆ 被爆建物や被爆樹木の写真，資料「被爆資料館の館長さんからの返事」），新聞記事</li> </ul>
<p>社会認識を育てる場</p>	<p>深める</p>	<p>○ 古くから残っているものを調べる学習計画を立てる。</p>	<p>③ 学習問題をつくり，調べる計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>多くの町で「ちょうさい」を廃止しているにも関わらず、「矢賀の「ちょうさい」」は、なぜ残り続けているのだろうか。</p> </div> <p>&lt;予想&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原爆ドームのように歴史があるから、それを伝えるために残ってきたんじゃないかな。</li> <li>・ 観光客を呼びたいからじゃないかな。</li> <li>・ 平和への願いが込められているからじゃないかな。</li> <li>・ 地域の人々が残したいと思っているからじゃないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「ちょうさい」の写真や映像を見せ、関心をもたせる。</li> <li>□ 態①（ノート記述）</li> <li>☆ 写真，映像</li> </ul>
		<p>○ 矢賀の「ちょうさい」について関心をもち、「ちょうさい」の歴史や地域の人々の取組について理解する。</p>	<p>④ 古くから受け継がれてきた矢賀の「ちょうさい」について，歴史的背景を調べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>矢賀の「ちょうさい」には，どのような歴史があるのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海田から「ちょうさい」が伝わってきた。</li> <li>・ 矢賀では「ちょうさい」が150年以上も受け継がれてきた。</li> <li>・ 以前は矢賀に4つの「ちょうさい」があったけど，今は1つしか残っていない。</li> <li>・ 今は車輪がついて，担ぐよりも</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「ちょうさい」の歴史を年表にまとめ，古くから受け継がれてきたことが実感できるようにする。</li> <li>□ 知①（ノート記述）</li> <li>☆ 資料「矢賀の男崎神社」（矢賀学区社会福祉協議会）</li> </ul>

	<p>引くようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ちょうさい」を出していない時期があった。</li> <li>・ 今では、「ちょうさい」の代わりに子供神輿もできた。</li> </ul>	
<p>○ 「ちょうさい」を残していくための取組について理解する。</p>	<p>⑤ 地域の人々がどのようにして矢賀の「ちょうさい」を残してきたのかを考え、話し合う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">矢賀三丁目の人々は、どのようにして「ちょうさい」を残し続けてきたのだろうか。</p> <p>&lt;予想&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人たちが協力して「ちょうさい」を修理したんじゃないかな。</li> <li>・ 車輪を付けるために、地域で寄付を募ったんじゃないかな。</li> <li>・ 子どもが参加しやすいように、何か呼びかけていたんじゃないかな。</li> </ul> <p>・ 矢賀三丁目の人々は、寄付を出し合ったり、蔵を建てたり、担ぎ手を増やすためによびかけたりすることで、何度もあった廃止の危機を乗り越え、「ちょうさい」を残し続けてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ これまでの学習を想起させ、願いや思いが込められているから今に至るまで受け継がれてきたのではないかと予想できるようにする。</li> <li>■ 何のために代々受け継いでいるのかを予想させ、「ちょうさい」を受け継いでいく意義について意識できるようにする。</li> </ul> <p>□ 態①（ノート記述） 思①（ノート記述）</p> <p>☆ 前時に作った「ちょうさい」年表</p>
<p>○ 地域の方がどのような思いで「ちょうさい」を残しているのか理解する。</p>	<p>⑥ なぜ、「ちょうさい」を残し続けてきたのかを考え、話し合う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">地域の人々はなぜ、「矢賀の「ちょうさい」」を残し続けようと考えているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ちょうさい」に込められた願いや思いを考え、まとめる。</li> <li>・ 地域の人々が「ちょうさい」を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 地域の方の話（映像資料）</li> <li>□ 思①（発言、ノート記述）</li> </ul>

			<p>残していくために取り組んでいる工夫や努力を資料から読み取り、まとめる。</p> <div data-bbox="507 286 962 819" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ かつての矢賀の町では、「ちょうさい」を通して、人と人がつながり、地域の一員として自覚をもつことができた。しかし、祭りに参加する人も減り、コミュニティーを広げることが難しくなっている。だからこそ、「ちょうさい」を担ぐことを通して、もう一度矢賀の一員としてのつながりを広げ、矢賀の町を発展させることを願っている。</li> </ul> </div>	
実践的な力を育てる場	いかす	<p>○ 矢賀の「ちょうさい」を存続させようとする上での課題について考え、まとめる。</p>	<p>⑦ 「ちょうさい」を残していく上での課題を考え、話し合う。</p> <div data-bbox="518 972 1398 1039" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ちょうさい」を残していく上で、どのような課題があるのだろうか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年々、担ぎ手が不足している。</li> <li>・ 祭りに参加しようとする地域の人が少ないってきている。</li> <li>・ 新しく矢賀に越してきた人たちの参加率が低い。</li> <li>・ 祭りに参加することで、地域のコミュニティーを形成していきたい。</li> <li>・ 伝統文化を残していかなければならない。</li> </ul> <div data-bbox="507 1581 962 1771" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化が進み、年々、担ぎ手が少なくなっている。</li> <li>・ 祭りに参加しようとする地域の人が少ないってきている。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「ちょうさい」を次世代に残そうとしている地域の人々の心情に寄り添うようにする。</li> <li>■ インタビューしたことをもとに、「ちょうさい」を継承していく上での課題をまとめ、その解決策をグループで考えさせる。</li> <li>□ 知②（ノート記述）</li> <li>態②（ノート記述）</li> <li>☆ 写真，地域の方の話（話をまとめた読み物資料）</li> </ul>

	<p>○ 「ちょうさい」を残していく上での課題を踏まえ、自分はどのように関わっていけるか考え、まとめる。</p>	<p>⑧ これから自分が「ちょうさい」とどう関わっていけばよいのかを考え、話し合う。</p>	
		<p>今後、矢賀の「ちょうさい」にどのように関わっていけばよいのだろうか。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 矢賀の「ちょうさい」が残っていくために、自分たちも積極的に参加したい。</li> <li>・ もっとたくさんの人に参加してもらえるよう、広告を作る。</li> <li>・ 少子高齢化が進むだろうから、もっと「ちょうさい」を軽くするように改修し、誰でも担ぎやすくなるようにする。</li> <li>・ 日ごろから地域の方とあいさつなどでコミュニケーションをとり、祭りの時には声を掛け合って参加できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 前時までの学習を通して分かった課題などから、それらの対策を考えさせる。</li> <li>■ 祭りや行事に参加できていない人々の事情について考えさせ、その人たちの心情に寄り添うようにする。</li> </ul> <p>□ 思②（付箋の記述） 態②（ノート記述）</p>

## 8 本時の目標

地域の人々が、「ちょうさい」を通して地域のつながりを広げ、町の発展を願っていることに気付き、そうした願いによって「ちょうさい」が残されてきたことを理解することができる。

## 9 本時の学習展開

学習活動	■教師の働きかけ ○発問 ☆準備物 □評価
<p>1 既習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ちょうさい」を残すために寄付を出し合っていたな。</li> <li>・ 蔵を建てて「ちょうさい」を保存して、残すような工夫をしていたね。</li> </ul> <p>2 学習問題を把握する。</p>	<p>■ 前時までの学習を想起させ、時代の変化や担ぎ手の不足などの課題に対応してきたことをおさえる。</p>
<p>地域の人々はなぜ、「ちょうさい」を残し続けているのか考えよう。</p>	
<p>3 「ちょうさい」が残されてきた理由を予想する。</p>	<p>☆ 文章資料「地域の方の話」</p> <p>■ 地域の方へのインタビューから、地域の人々が「ちょうさい」を残さなければならないと考えていることに気付かせる。</p>

<p>4 予想を整理分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 矢賀の人たちが仲良くなるという予想と、町を盛り上げたいという予想は、同じ仲間になるかな。</li> <li>・ 伝統というグループができそうだ。</li> <li>・ このグループとこのグループに何か関係がありそうだな。</li> </ul> <p>5 地域の方の思いを知る。</p>	<p>■ 第3時に予想したものを分類し、「ちょうさい」には様々な魅力や伝統があることに気付かせる。</p> <p>☆ 映像資料「地域の方の話」</p> <p>■ 地域のつながりを構築することで、町の発展を願っていることに気付かせる。</p> <p>☆ 映像資料「「ちょうさい」の様子」</p> <p>□ 知①発言、ノートの記述</p>
<p>飯田さんをはじめとする地域の方々は、「ちょうさい」を担ぐことを通して、地域のつながりを広げることを目指している。</p>	
<p>6 本時のふりかえりをする。</p>	<p>※本時をふりかえらせ、分かったことや気づきを書かせる。</p>

参考文献

- ・ 石川悌次郎「増本量伝」誠文堂新光社、1976
- ・ 矢賀学区社会福祉協議会「矢賀の男崎神社」
- ・ 東区役所区政調整課「区報 ひがし」2007
- ・ 矢賀学区社会福祉協議会「矢賀学区だより」1999